

第 39 回 エクソンモバイル音楽賞 邦楽部門

藤舎 呂船 (とうしゃ ろせん)

邦楽囃子

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 5-37
Tel: 03-3235-3232 / Fax: 03-3235-3450

◆ 贈賞理由 ◆

六世藤舎呂船氏は邦楽囃子の藤舎流を率い、このジャンルで最も重要な活動をしている音楽家である。父の四世藤舎呂船の薫陶を受けて獲得した優れた演奏技能と格調高い様式感による演奏によって、囃子の伝統を守るとともに、新しい作品の演奏を積極的に行って、囃子を活性化するとともに、その音楽的な価値を高めている。早くから作曲も始められ、囃子による《山月》などの作品とともに、囃子を用いない三味線四重奏曲《涛声》など、多様な楽器編成の作品も発表してこられた。また、現代邦楽にもかかわり、囃子のパートを作調するとともに、その演奏を行い、古典と現代の橋渡しをしている功績は大きなものである。

(音楽賞邦楽部門 選考委員会)

◆ 略歴 ◆

1944 年京都市生まれ。東京藝術大学邦楽科卒業後、1967 年囃子方職分となる。師匠である四世藤舎呂船、藤舎せい子(五世呂船)の教えを受継ぐべく 1979 年“囃子研究会(非公開)”を発足し、後に 1986 年“真しほ会”の開催へとつなげる。同世代の仲間や後輩と共に、囃子の立場から稀行曲を含む古典の研究を主題として現在で 24 回を数える。1986 年藤舎流六世家元を継承する。“藤舎会”、“藤舎呂船の会”も主宰し、2003 年より隔年で囃子の可能性を探り、面白さをアピールする目的をもって“藤舎囃子研究会”をスタートさせる。国立劇場邦楽鑑賞会、長唄“温知会”等の素演奏の他、舞踊公演の出演も多い。作曲活動は、日本舞踊協会創作公演《鳥獣戯画》、《陰陽師》、スーパーカブキ《オオクニヌシ》など、また作調(囃子パートの作曲)も多数ある。長唄協会常任理事、京都造形芸術大学客員教授、桐朋音楽大学夏期集中講義特別招聘講師などを務める。

◆ 主な受賞歴 ◆

2001年 第22回 松尾芸能賞 優秀賞